

標準作型 ○印・播種(種まき) △印・トンネル □印・定植 □印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露 地			○		△							
トンネル												
早 熟		○	△									

栽培のポイント

ナス科のトマト・ナス・ピーマン・ジャガイモ等は青枯病などの土壌病害虫が発生しやすいので、連作を避けて、ナス科作付けを3~4年以上空けること。
 霜に弱くマイナス1℃で枯死するので、トンネル資材(ポリエチレンなど)を用いないときは、あまり早く定植しないこと。遅霜の被害が出そうなときは、シルバーポリなどで保温対策する。
 風ズレなどで果実に傷が付きやすいので、防風ネットかソルゴーをナスの周囲にまいて風よけ対策し、混み合った葉や枝を除去して、主枝は支柱で固定する。

品 種 千両2号(タキイ)長卵形の標準的品種で石ナスや夏ボケ果が少ない。
 庄屋大長(タキイ)極長形の品種で肉質柔らかく、焼ナスに適する。
 太郎早生(みかど協和)米ナスで、しまった肉質で焼き物、田楽などに適する。
 サラダ紫(県種苗協)水ナスタイプの巾着型ナスで、浅漬けなどに適する。
 トルバムビガー(各社)台木用の品種で、ナス科野菜を連作しなければならないときは、この品種を穂木の品種より20~30日早くまいて、接ぎ木を行う。

畑の準備 苦土石灰(10kg/a)・堆肥(100kg/a)を1ヶ月前に施しておく。
元 肥 元肥は定植の前のうねを作るときに施用する(大きなうねほど木が衰えない)。
 (1a 当たり使用量)

CDU 隣加安 S555 号タマゴ	8 kg	定植前
ようりん	4 kg	

定 植 本葉が7~8枚出てツボミが見えた頃に3~4日外気に慣らしてから定植する(早く植える場合は、地温の確保をするためマルチやトンネルを利用する。トンネルやマルチは早めに準備し、地温を上げておくことが大切)。

※ 株間60㎝、うね間150~180㎝ 定植本数の目安:100本/a

支 柱 苗の生長を見越して、ゆるめに支柱に8の字で誘引する。また、風により果実にキズが出来やすいので、防風対策を行う。

整 枝 枝は3本仕立てにし、下部のわき芽などはこまめに摘み取る(枝が多いと茂って日当たりや風通しが悪くなり、病害虫の発生が多くなる)。

追 肥 ナスは長期間にわたって収穫ができるので1ヶ月毎に追肥する。

(1a 当たり使用量)

NK化成2号	5 kg
--------	------

敷きわら 梅雨明け後に根に障害を起こさないように、乾燥防止の敷きわらを事前にする。
病害虫防除 病気では、うどんこ病、害虫ではアブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、チャノホコリダニ、オオタバコガなどが発生する。定期的防除に努めるとともに、実がなり始めたら草勢が低下しないように適宜追肥することが必要。ソルゴーをナス畑の周囲に播種すると、アザミウマ類の天敵が増殖して、被害を軽減できる。
収 穫 長期間にわたって収穫する場合は、最初の果実は早めに収穫し樹に負担がかからないようにする。

秋ナスを収穫するには7月下旬頃の太枝更新剪定と断根作業により、10~11月頃までの収穫。3本仕立ての基部に1~2本の小枝を残して切り落とす。クワ入れと同時に追肥を忘れずに施用すること。